

【第3分科会】②
猪又隆洋先生（神奈川・神奈川県立横浜栄高等学校）

アジアの美術工芸文化の鑑賞
～新たな美の発見、そして異文化理解教育へ向けて～

Q 1 生徒に何を伝え、受け取らせたいのか。発表の席上、語り足りなかったことがあればお聞かせください。

A 「すでに価値の定まっている西洋の著名な美術作品のみを知るだけでなく、アジアの無名な美術文化の中からも美を発見することができる喜びを伝え、彼らの認識している美術の幅を広げたい。さらにはそれを、美術を通しての異文化理解教育にもつなげていきたい。」その思いで授業を行っています。大げさかもしれませんが、私の授業を受けた彼らにとって、いつかこの世界を変えてゆくための第一歩になればと思って取り組んでいます。

Q 2 旅行をしないでこのテーマで鑑賞を進めるにはどうしたらよいですか？

A このテーマはあくまでも私自身が体験したことを基にしたものなので、その体験が無いと同じ内容の話はできたとしても、言葉にリアリティが出ないかもしれません。テーマは何でも良いのだと思います。自身の体験を通して自身の言葉で何を生徒に語れるのか、自身を客観的に見つめてみると教材作りのヒントは以外と身近なところで発見できるのかもしれません。

Q 3 「美術 I」や専門科目の「美術史」の中で、東洋の美術を取り上げる際のポイントは何か？

A 私たちは公立学校の教員なので学習指導要領に沿って授業を進めなければなりません。そのため私はこの教材において、学習指導要領にある『諸外国の美術文化について理解を深める』ために「時代、民族、風土、宗教などによる表現の相違や共通性などを考察し、美術文化についての理解を一層深めること」、「国際理解に果たす美術の役割について理解すること」、「文化遺産としての美術の特色と文化遺産等を継承し保存することの意義を理解すること」という文言を意識しました。東西のつながりや比較を心がけながら、文化が徐々に変化していくケースや急激に変化するケースなど、その違いや要因は何なのかを地理、歴史、宗教、民族・・・などを交えながら、広く美術文化の相違や共通性を考えていけるように工夫すると美術の重要性も更に増すのではないかと思います。

Q 4 社会科の教員と連携を図ったりしますか？

A 社会科で教えている内容と大きな相違がないかどうか、史実や単語に誤りや思い違いが無いかどうか、私の考えたことが独りよがりでないかどうか、などを社会科の先生と話し合いながら進めています。

Q 5 1時間が週2回の時間割だったら、時間をどう使いますか？

A この教材をもしそのまま行う場合、10～15分を2分割してしまうと内容が浅くなってしまうので、分割せずにどちらかの授業の冒頭で行って、もう片

方では行わないと思います。もしくはその時間割や学校のシステムに合わせて内容を大幅に作り直すかと思います。

Q 6 「異文化ワークショップ」について詳しく知りたいです。

A 下記のサイトが参考になると思います。ぜひご参照ください。
JICA地球ひろば <https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html>
公益社団法人青年海外協力協会 (JOCA) <http://www.joca.or.jp/education/>
NPO法人開発教育協会 (DEAR) <http://www.dear.or.jp>

Q 7 初任校の様々な問題に対してどのような変化が見られたのか知りたいです。

A 初任校での様々な問題に対して正直何ができたのかはわかりません。私のやってきたことは正しかったのか、もっと良いやり方があったのではないかと、今でも自問自答しています。彼らの抱えていた悩みや問題の大きさに比べたら、私のしてきたことはもしかしたら無力だったかもしれません。ただ、卒業時に私のところへ来てくれて、アジアの話が面白かった、将来私もいろいろな世界を見てみたい、と言ってくれた何人かの生徒たちの言葉を糧に今後も精進していきたいと思っています。

Q 8 異文化を扱うときの留意点はありますか？

A 偏見を植え付けてしまわないように中立で公平な立場を心がけ、生徒自身に考えさせることが大切だと思います。

Q 9 アジア美術は、たくさんの国がありますが、選んだ作品について詳しいことがわからない等、困ることはありませんか？ また、準備の工夫はありますか？

A 基本的に自分自身の見てきたものや体験してきたことを自身の言葉で語るというのがコンセプトでしたので、この授業の中では全く知らない作品（文化）について大きく取り上げることはしませんでした。準備は大変でしたが自身の「作品」を作る感覚で取り組むと楽しく取り組みました。

Q 10 第1回目の国は中国ですか？

A 前任校で連載していた旅行記が土台になっていますので、第1回目はアジアの概要とこのコーナーの意義について触れ、中国編は第2回目に行いました。最終回の第23回では全体の振り返りとまとめの時間を設けています。

土台となった旅行記の構成

1. 初めての旅
2. 旅立ち～中国
3. 中国雲南省
4. ベトナム
5. ラオス
6. タイ
7. カンボジア
8. ミャンマー（ビルマ）
9. インド
10. ネパール
11. チベット
12. 西チベット
13. 新疆ウイグル自治区
14. キルギス
15. パキスタン
16. アフガンニスタン
17. イラン
18. トルコ
19. シリア・レバノン
20. イスラエル
21. ヨルダン
22. エジプト

